

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2025年2月号

森のおくりもの²

NO.401 The Gift from Woods

シマアメンボ (アメンボ科)



♪ぼーくらはみんな一生一きている♪に登場するアメンボですが、このシマアメンボは成虫で越冬するんですね。去年の2月は3月並みの気温も多く、20℃を越える日もありましたが今年はどうでしょうか。生きものたちの営みが当たり前の日常でありますように、いつもの自然観察の森であり続けてほしいものです。

【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『虚心坦懐（きょしんたんかい）』

冬の森は、冬枯れという言葉に相応しい寒々とした光景が拡がり、時には生きものの息吹も感じられないほどの静寂に包まれる日があります。一年中葉が茂る常緑樹との対比で、葉が枯れ落ちた樹々がより目立つように思います。

秋の終わりに葉が落ちるのが落葉樹の特徴ですが、ヤマコウバシは落葉樹であるのに冬でも葉が枝に付いたままの性質があり、“落ちない葉”で縁起がいいということで、合格祈願のお守りにしている所があると知りました。受験のお守りという視点で改めて見ると、葉が付いた状態のものが目立って見えてくるので不思議です。イヌブナやチドリノキにも同じ性質があることは知っていましたが、小さなものや2～3枚だけのものも気になるようになりました。元々の性質として備わっているものよりも、たまたまの方がお守りとしてはご利益があってもいいかもしれません。また、イヌブナでも樹によっては葉を落としているものもあることに気づきました。

落葉樹は冬には葉を落とすもの、イヌブナは葉が残るのが当たり前だと決めつけていました。「虚心坦懐」という言葉があります。「物事に先入観やこだわりを持たず、何のわだかまりもない素直な心で物事に臨むこと」という意味です。先入観が邪魔をして新しい発見ができないということかもしれません。

カシワは、春に新芽が出るまで葉を落とさないことから、「代が途切れない、家が続く」と子孫繁栄の象徴として家紋の意匠になっています。枯れた葉が枝に残る性質は、その他のブナ科のコナラやクヌギ、クリなどにもあるようです。でも、確認するとほとんどが落葉していて、一部の稚樹にみられる程度でした。

どういうしくみなのか調べてみましたが、葉が枯れ落ちるのは離層ができるからなのですが、離層ができないのは、種類や要因など様々で、樹齢や場所によってもまちまちと、一概にいえないうです。

自然は、わからないことが意外と多く、全て答えが出ているわけではありません。先入観を持たず、わからないことや不思議なことをおもしろがって楽しむことが大切なのではと思いました。

【レンジャー：新田隆一】



ノネズミの展示を始めました

2月初めからノネズミの展示を始めました。ノネズミの捕獲にはシャーマントラップを使います。シャーマントラップとはネズミなどの小型哺乳類を殺傷せず、生きたまま捕獲するための罠です。素材は軽量で丈夫なアルミニウム製で箱型のシンプルな構造をしています。中に餌を入れて設置するだけで、動物が自ら罠にかかります。構造はネズミがその箱のなかに入れてある餌につられて中に入り踏み板を踏むとバネが作動し入口が閉まる仕組みになっています。名前はその名の通り発明者のシャーマン氏にちなんで名付けられました。

第1回目の捕獲は1月15日の夕方に森の中のネズミが出そうなところに約20箇所シャーマントラップを設置し、その日のうちに回収します。次の日だと冬の寒さのためネズミが凍死してしまうためです。夜、9時過ぎに回収するため、森に入るとしんと雪が降っていました。雪が多いとネズミの行動が鈍くなるため、3匹しか捕獲することが出来ませんでした。それもすべてアカネズミです。展示はできればアカネズミとヒメネズミ共に展示したいので捕獲できるまで頑張りたいと思っています。

またこれは誰もが捕獲出来るわけではなく、役所に明確な理由を記載し届け出を出し、それが受理されないと捕獲することができません。

【レンジャー：齋 正宏】

シャーマントラップ



アカネズミ



森の「あれこれ」



「森のメジロと町のメジロ」



高い樹の枝先にコケ玉のような丸い物体がありました（左上の写真）。葉が落ちて見通しが良くなる冬ならではの光景ですが、昨年メジロが子育てのために使った巣です。メジロ（右上）は体長12cm体重11g程の日本最小級の小鳥で、観察の森では4月の初め頃からさえずりが聞かれます。巣をつくって子育てをする姿は生い茂った木の葉にかくれてなかなか見ることができません。見つけたとしても近づかないようにしてあげましょう。メジロの巣は一度子育てが終わると放置され使われる事はありませんが冬の強風の後など落ちた巣をよく拾います。どれもコケが使われていました。



左上の写真は左が観察の森でひろったメジロの巣、右は住宅地にある樹についていたものです。どちらも草の茎など使われ、くちばしだけで作ったとは思えない精巧なつくりでした。森のメジロの巣は外側がコケでおおわれている一方、驚いたことに町のメジロの巣は、なんと荷造り用と思われるビニールひもをが細く割かれて使われています。観察の森だけでも30個以上のメジロの巣を拾いましたがこれほど徹底して“化学繊維”利用の巣は見たことがありません。住宅地では思い通りにコケが集められないのでしょうか？それとも丈夫で便利な材料として利用しているのでしょうか？プラスチックは土にかえらないので自然の中にあってはいけないという人間の常識とは別次元で“そこにあるものを上手に利用してしなやかに生きていく”野生のいきものの姿に感動すらおぼえます。

【レンジャー：木田秀幸】

森は生きている



① 集団で越冬するヨコヅナサシガメの幼虫、名前のおり刺しますので手を触れないように ② 蛾の成虫を宿主として、寄生する冬虫夏草ガヤドリタケの仲間 ③ 葉が落ちると見えてきます、ニホンリスの巣 ④ 頭隠して尻隠さず、岩の隙間で越冬するハナアブの仲間



暦の上で春が始まるのは「立春」で、毎年2月4日頃になることが多いようですが、気象庁の予報用語では、12月から2月までは「冬」とされてるそうです、まだまだ寒くて重ね着しながら森を歩いています、春を待ち望んでいるのは生き物たちも同じですね。

【レンジャー：菅井 潤】

2月のイベント & お知らせ

◆『野鳥のレストラン』開催中！

- ・ 冬季限定でバードテーブル（野鳥のためのえさ台）を設置しています
開館時間中、研修室の窓から餌を食べる様子をそっと見ることができます
【期間】 12月1日(日)～3月30日(日) 9:00～16:30

◆『かわいい雪だるまのリースを作ろう』

- ・ 自然素材で作った雪だるまや木の実などを接着してリースを作ります
【日時】 2月15日(土) 10:00～11:30
【対象】 小学生以上 10名
【持ち物】 特になし
【申込み】 2月6日(木)午前9時から電話で受付〔先着〕

◆『森のアート感さつ会「こけウォッチング」』

- ・ こけを観察するコツや注目するポイントを知り、美しさや魅力を楽しみます
【日時】 3月1日(土) 10:00～12:00
【対象】 小学3年生以上 10名
【持ち物】 飲み物、防寒具、かっぱ、歩きやすい服装と靴
【申込み】 2月7日(金)午前9時から電話で受付〔先着〕



毎週日曜は『ガイドウォーク』の日！

開催日：**2日, 9日, 16日, 23日**

開催時間：10:00～11:30

※12月～3月の冬季は午前みの開催

申し込み不要。時間までにセンター前へお集まり下さい。

2月の休館日

3日(月)、10日(月)、
17日(月)、25日(火)

※月曜日が祝祭日の場合、翌日以降の平日が休館

宮城交通バスの場合

① 仙台駅 乗車時間 約40分
② 長町駅東口 乗車時間 約30分
③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③ 「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合
国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

観察の森へのアクセス

太白団地
公営アパート前
SEIYU
山田交差点
名取川

**自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで！**

2025年2月号
発行：(公財)仙台市公園緑地協会
編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「杜のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakusan/index.html>